

平成26年7月9日  
(資料提供)

(事務担当)  
所属名：農林総合研究センター  
農業試験場 総合研究部  
病害虫防除室  
直通：257-6972

## 平成26年度病害虫発生予報第4号について

今後発生が予想される、水稻、大豆、果樹、野菜、花きの病害虫の、発生時期や発生量、防除上の注意事項などを掲載する。

1 予報期間 7月15日～31日

### 2 予報内容

#### (1) 水稻

穂いもちの発生はやや多と予想される。出穂前後の防除は必ず実施すること。また、葉いもちの発生地域では、出穂前後の防除後も注意深くほ場を観察し、さらに進展が見られるようであれば追加防除を実施する。

紋枯病の発生は多と予想される。発病を確認した場合、直ちに防除を実施する。

斑点米カメムシ類の発生は多と予想される。出穂後の好天により水田侵入が助長されるので、防除を徹底し、斑点米の発生防止に努める。【病害虫発生予察注意報第1号（平成26年7月9日付）参照】

#### (2) 大豆

アブラムシ類の発生はやや多と予想される。抵抗性の発達を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

#### (3) 果樹

ナシ黒斑病の発生はやや多と予想される。ポリオキシソニチンおよびジカルボキシイミド剤は耐性菌が県内に広く分布しているため、散布回数をそれぞれ年1回にとどめる。

リンゴ斑点落葉病の発生はやや多と予想される。降雨前後の薬剤防除を徹底する。

カメムシ類の発生は多と予想される。発生を認めた場合は直ちに防除する。

ハダニ類の発生はやや多と予想される。抵抗性の発達を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。発生源となる下草を刈り取った後、防除する。

#### (4) 野菜・花き

アブラムシ類、アザミウマ類の発生は多と予想される。抵抗性の発達を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

ハダニ類の発生はやや多と予想される。抵抗性の発達を防止するため、同一系統

の薬剤を連用しない。

オオタバコガの発生は多と予想される。施設栽培では、開口部に寒冷紗等を設置して成虫の侵入を防止する。若齢期の幼虫の防除を徹底する。

コガネムシ類の発生はやや多と予想される。防除適期は7月下旬から8月上旬である。

※病害虫防除の実施に当たっては、最新の農薬使用基準を確認し、遵守する。